

新しい発信地 新たな学び

昨年創立111周年を迎えた中目黒・代官山キャンパスがこの4月に開校。緑あふれる豊かな地に、優れた音響環境を誇るTCMホールや、充実したレッスン室、練習室を完備した新しい学び舎が誕生しました。

今回、東京音大ジャーナルでは教員の声、学生の声を集めました。東京音楽大学の新しい発信地、新たな学びをご紹介します。



手にしたからこそ、自分の財産になってしまいます。学生生活をとおして、そういうものを自分で模索することが大切だと思います。

ガラス張りの教室が多いことに関しては、当初は「落ち着かないのでは?」と心配していましたが、今はあまり気にならないですね。開放感があり、校内を歩いていて楽しい気持ちになります。私のお気に入りの場所は、3階の渡り廊下。廊下の中央に立ち、代官山方面を眺めると、キャンパスの上から下までが見下ろせます。レッスン後に外の空間に出ることで、新鮮な空気と緑を味わえて、気分転換になるでしょう。

新キャンパス完成に至るまで、先生たちと何回も綿密に会議を繰り返し、そこでまとまったわれの要望をプロフェッショナルの皆さんに汲み取り、丁寧に造り上げてくださいました。

学生の皆さんは、新しいキャンパスでも努力を怠らずにがんばってほしいと思います。



植田 晴さん
打楽器3年
横浜隼人高等学校卒業



伊舟城 歩生さん
ピアノ演奏家コース4年
東京音楽大学
付属高等学校卒業

理想的な環境

どの練習室のピアノも響きがちょうどよく調整されており、新しいピアノにも囲まれて、より音に集中できる場を整えてくださったと思っています。ピアノの学生にとっては最高の環境です。レッスン

室に関する限り、練習室同様、響きがよいです。音大生にとってレッスン室は、最も重要な場所だと思っています。理想的な環境の中でメラメラとやる気が上昇しているところです。

また「中目黒・代官山キャンパスのレコードティングスタジオの設備がすばらしい」と、学生の間でも噂になっています。新キャンパスでは、学生も気軽にレコードティングスタジオが使用可能とのことなので、ぜひ活用してみたいですね。

バスの練習室とバランスよく併用したいと思っているところです。打楽器の多くの学生が使用できるよう、学生同士で独自のルールを作ったり、共有のカレンダーを作成し、自分たちで工夫して練習室を利用しています。

クリエイティブラボは譜読みや製本作業、自習などをする時に集中できるスペースです。皆で何かを話し合う時にも使用することが多く、交流の場としても活用しています。

[特集1] 新キャンパスから 響かせる

音に集中できる 最高の環境

野島 稔 学長

新キャンパスの環境は期待していた以上です。レッスン室は天井が高く、音の響きがとてもよい。音響がよいことは、音楽を学ぶ学生にとって、もっと大切なことだと思います。中目黒駅と代官山駅に近く、アクセスもよい。静かで環境の整った場所で新しいスタートを切ることができました。校内のインテリアも音の邪魔にならず、集中できる環境です。

音に集中できる」ということです。音のバランスや音量などが正しくない場合、疲れるばかりで無駄にエネルギーを消費してしまい、同時に時間も無駄にしてしまう。そういう意味で、中目黒・代官山キャンパスの練習室やレッスン室は、均衡のとれた音の中で学ぶことができる最適な場所かと思います。

学生生活の中で一番大切なのは「集中すること」。自分が集中できるシチュエーションを自ら探索

し、愛情を注げるものを見つけ、挑戦し続けてください。たとえば、無限のレパートリーの中から「たとえ自分が失敗してもいいから、チャレンジしたい」と思える曲と出会うこともそのひとつ。目標を決め、挑戦していく過程で失敗をしてしまうこともあるでしょう。しかし、その曲への愛情や探求心が強ければ、めげることなく再度立ち上がりができるはず。簡単に手が届くものではなく、苦労して

新キャンパスには、新しい打楽器をそろえていただき、うれしい気持ちでいっぱいです。練習室に関しては、どうしても打楽器はスペースを要する楽器が多いため、池袋キャン

集中して創造する空間 クリエイティブラボ

新キャンパスには、新しい打楽器をそろえていただき、うれしい気持ちでいっぱいです。練習室に関しては、どうしても打楽器はスペースを

要する楽器が多いため、池袋キャン

開かれたキャンパスで 地域とのつながりを実感



ガラス張りの ボーダレス化された部屋でつながっていく 新たなコミュニケーション



作曲「芸術音楽コース」
土屋 雄 准教授

私が担当している「マルチメディア演習／研究」は作曲専攻以外の学生们が「コンピュータを活用して楽譜を作成するスキルを身につけることを主軸とした授業です。この講座がスタートしたのは2008年、音楽大学で作曲専攻ではない学生に対し、この種の授業をはじめたのは画期的なことでした。授業をひととおり学ぶと、楽譜を作成ソフトウェアの世界標準である「フィナーレ」の基礎を把握できる内容になっています。

学生の皆さんには、後になってか

らも身につけたことをしっかりと見直せるように、各自必要なことをノートに書き込む、従来のアナログの作業も大切にしてほしいと思っています。「(手を使って)書くことの重要性」およびそれに伴う思考は、どれだけデジタル化が進んでも必要不可欠なことだと思います。

新キャンパスに移転し、教室がガラス扉やガラス張りになったことで、この教室の前を通っていく学生や先生方から興味をもっていただけ、ここで行われている授業内容についてたずねられる機会が増え

ました。移転当初は教室のガラス張りに少し驚きましたが、今ではすっかり慣れましたね。物理的なことだけでなく、あらゆるもののが見えやすくなつた気がします。加えて、新キャンパスは非常に有機的につながっているので、学生たちはもちろん、教職員間の距離も以前よりも近くなり、コミュニケーションが密になっています。

今後も新しい時代に向けて、音大生が理想とするコンピュータを活用した創造力を育成を、しっかりと進めたいと思います。



オペラの授業でTCMホールに実際に立たせていただいています。響きがとてもよく、自分の音がしっかりと返ってくるので不安になることなく、のびのびと歌うことができます。響きのよい教室はたくさんありますが、ホールで客席を前にすると、本番をイメージすることができます。歌うことに対する意識は格段に高まりました。

中目黒代官山キャンパスの立地もすばらしく、毎日の通学も充実しています。食堂やカフェに地域の方がたくさんいらっしゃって、住民の方と接する機会が増え、「私たち



松浦 友香さん
大学院声楽専攻
オペラ研究領域1年
東京音楽大学声楽専攻卒業
日出学園高等学校卒業